

有限会社中条農産における 研修生受け入れの取組

有限会社中条農産
代表取締役 佐藤 隆史

1. 会社・地域紹介

会社概要

会社名	有限会社中条農産
代表取締役	佐藤 隆史
設立	平成6年3月
所在地	新潟県胎内市
事業内容	稲作、園芸施設野菜、農産物加工 各種作業受託、各種販売

経営の特徴

水稻を基幹作物として農産物加工や施設野菜などを取り入れた複合経営を実践し、水稻部門においては有機JAS認証米や特別栽培米を栽培するなど、環境に優しい農業を実施。研修生のほか、農業体験も積極的に受け入れており、参加者は数千人規模にのぼる。



経歴



佐藤 隆史
Sato Takashi

- 新潟県胎内市中条出身
- 1994年3月 新発田農業高校卒業
- 1994年 先代・佐藤 豊吉が(有)中条農産を設立
- 1996年3月 新潟県農業大学校卒業
- 1996年4月 (有)中条農産入社(就農)
- 1998年3月 富山県にて1年間に大規模農業研修(約200ha)修了
- 2002年1月 新潟県青年農業士として認定
- 2015年 (有)中条農産 代表取締役就任
- 2021年1月 新潟県指導農業士として認定

胎内市の農業

- ・平成17年9月に旧中条町と旧黒川村が合併して誕生
- ・県庁所在地である新潟市から北へ約40kmに位置しており、北は村上市、南は新発田市に隣接
- ・上流部は 溪谷、中流部の扇状地は農地、海岸線には砂丘が広がっている

基本データ

■経営体数

農業経営体数	1,033 経営体
--------	-----------

■面積

耕地面積	4,150ha
田	3,480 ha
畑	669 ha

■農業産出額(推計)

合計	1,020 千万円
耕種計	484 千万円
うち米	294 千万円
畜産計	536 千万円



出典：農林水産省「わがマチ・わがムラ(<https://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/15/227/index.html>)」

2. 研修について

研修生の受け入れ

1 研修実施の経緯

- ・1990年代から受入開始。
- ・当初は新規就農者の育成ではなく、地域振興局の新規職員や県職員向けに実施していた。
- ・当時は16haほど作付けしており、地域内では比較的大規模だったため、研修生を受け入れやすい環境が整っていた。

2 募集

- ・地域振興局や普及指導センター経由での依頼
- ・ホームページにて募集

3 求める要件

- ・貯蓄額や年齢の要件は設けていない
- ・農業への意欲として、
 - ①なにを覚えて吸収したいか
 - ②将来的にどういった経営を行いたいかの2点を重視

研修生の受け入れ

4 受け入れ実績

- ・農業大学校を卒業して親元に入る前の研修生が多い
- ・胎内市外の県内が5名、市内が1名
- ・基本的には水稻をメインで研修に参加

研修年度	就農形態	作目	労働力
1999～2000年度	親元(経営主)	米・野菜	家族労働+パート3名
2008～2009年度	親元(経営主)	米・野菜	家族労働
2012～2014年度	親元(親の右腕)	米・野菜・果樹	家族労働+パート3名
2015～2016年度	親元(経営主)	米・野菜・施設園芸	家族労働
2017～2018年度	独立自営	米、大豆、施設野菜	自身のみ(雇用を検討中)
2024～2025年度	親元(親の右腕)	米・野菜・花・果樹	役員5名+従業員1名

研修カリキュラム

1 農作業

指導

- ・会長、代表取締役、社員(4名)が分担し、現場全体で育成。実務を通じて技術習得を目指す
- ・水稲以外の作目については、近隣農家のもとで実習を行う場合もある
- ・定期的に研修態度や注意すべき点、良かった点などについて、指導者による評価と研修生による自己評価を行う

研修年度ごとのねらい

- ・1年目 水稲を中心に農業機械の運転操作や安全性を重点的に学ぶ。
基本的に1人での作業は行わず、常に2、3人体制で行う
- ・2年目 自身で考える実践的な研修に移行し、1人での作業も経験

年間の研修スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水稲			浸種 耕耘	播種 耕耘	田植え	除草剤散布	草刈り 水管理	防除	稲刈り		秋耕	
その他	冬野菜 の収穫	農機具の 整備・点検				施設野菜の 管理		施設野菜の 収穫			野菜の定植	切り餅加工

研修カリキュラム

2 座学等

- ・行政や農協等が実施する外部研修会に参加
- ・日常業務を通じたノウハウの習得

販売管理

- ・業者との打ち合わせに同席
- ・販売先の紹介
- ・新規開拓に同行

財務管理

- ・青色申告や会計の勉強会に参加
- ・農業簿記の取得を推奨
- ・必要に応じて市役所の担当者を紹介

労務管理

- ・特定のカリキュラムには組み込まず、研修生からの質問や疑問にその都度回答

3 研修のポイント

研修期間

水稻は1年1作で反復回数が限られるため、最低2年の複数年研修が必要である。

規模

規模が大きいと作業を反復できる回数が増えるため、40ha以上の経営体での研修が望ましい。

研修カリキュラム

スマート農業への取り組み

研修生は、水位センサーや無人ヘリコプター、ドローンを使用した作業を体験している。
また、スマートフォンを使った作業記録等も行っている。



水位センサー



防除用ヘリコプター



自動除草機

3. 就農・独立支援

就農後のフォローアップ

1 就農・独立支援

- ・園芸品目の提案
- ・外部の専門家や機関の紹介
- ・必要に応じて、自身の農地を一部貸与
- ・機械の貸し出しや作業のサポート
- ・卒業生の経営が厳しい場合は、短期アルバイトとして受入

2 卒業生との関係

- ・人手不足の際には、互いに作業応援
- ・外部講師を招いた「社内塾」(現在は実施しておらず)
- ・栽培技術についての各種研修会と一緒に参加
- ・アイガモの共同購入



今後の展望・課題

1 今後の展望

研修受入

自身も様々なところで研修を受け、育ててもらった経験がある。
農業者が減少傾向のなか、少しでも後継者を育てるために研修生の受け入れを増やしていきたい。

交流機会の創出

富山での研修仲間とは今でも情報交換をしている。当社も同様に情報発信や意見交換のハブとなることを望む。

2 課題

働き方について

新規参入者を増やすためには若い人が働きやすい環境を作ることが重要と考えているため、意識して整備している。
一般的な企業と同様の労働環境となることが望ましいが、農業は繁閑があるため難しい。